大賞

# 佐渡市立赤泊小学校

さどしりつあかどまりしょうがっこう

佐渡市

## 竹プロジェクト ～ 防災 × 竹 自分たちの被災経験を SDGs へ！～

竹と自然災害とのかかわりを知り、地元である赤泊や佐渡に必要なことを考え、竹の困りごとを少しでも解決できるように行動し、学んだ事や経験を地域のみなさんに伝え、広めることを目的としています。

令和 4 年 12 月に実際に自分たちが被災した雪害の経験をもとに、令和 5 年度から、自然災害を自分事として学んでいた子どもたち。令和 6 年度からは、赤泊の雪害の原因となった竹を、困りごととしてだけでなく、資源として活かす方法を考えました。地域事業所や地域のみなさんへ「災害時のお困りごとアンケート」を実施し、困ったことや役立つ体験談等を集めるとともに、地元森林組合から竹の見分け方や竹の加工を、市役所から竹チップを使った利活用事業等を学びました。こうした学びを通じて、竹を使った料理や竹の加工、ペットボトルキャップと竹をアップサイクルした器づくりに挑戦しました。

また、SDGs へとつなげていくにはどのようにしたらよいか、可能性を探るため、地元の森林組合・漁業組合・農家・畜産農家・市役所などの方々からの学びを基に探究を進めました。さらに新潟大学自然共生科学センター臨海実験所でのマイクロプラスチック採集体験や長岡技術科学大学の特任講師からのご講義、SDGs プロモーターとの交流等、専門性の高い講師から学んだことを基に、自分たちの身近な生活へと還元し、地域の課題と可能性を対話的・体験的に学習しました。

活動の成果として、使われない竹の課題を「環境資源」としてとらえる視点が生まれました。竹チップの活用や食材・器としての利用を試したり考えたりしながら、地域の資源循環や環境保全の可能性を地域に伝えました。また、地域の方に呼びかけ、直接顔を合わせて対話の場を設け、雪害時の備えや竹の利活用などについて幅広い年齢層が混ざって意見の交換を行い、考えを広げることができました。

赤泊地区で地域と学校と行政が合同で行っている「赤泊みんなでまなぼうさい」への参加をはじめとして、災害への備えを共有しながら、使われない竹を価値ある資源に変える活動を広げ、自然と共存できる佐渡の未来づくりにつなげたいです。



きれいに見える海岸にも
マイクロプラスチックがたくさんあることに衝撃を受けました。



ペットボトルキャップと竹でアップサイクル加工に挑戦しました。






佐渡市主催の「小中学生 SDG s 取組発表会」に参加したおかげで、
アンケートへに協力してくださる方が増えました。



佐渡市長を囲んで、佐渡の未来について対話しました。



放牧畜産の牧場からアニマルウェルフェアを学びました。



竹の整備の仕方や課題を森林組合の方から教えて頂きました。



竹塩むすび、竹さつま汁、竹ヨーグルトを作りました。



長岡技術科学大学の SDGs プロモーターの学生たちと共に
SDGs をテーマに対話をしているところ。

**受賞者コメント**

このたびは素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。子どもたちは、自らの被災体験をきっかけにして、竹と防災をテーマに学んできました。官民学、多くの地域の皆様に関わっていただき、対話を重ねながら学んだ体験を通して、課題をより身近に感じ、自分事として佐渡の未来を考えていました。これからも、主体的・対話的で深い学びを重ねながら、自然と人が共に生きる佐渡の未来づくりに取り組んでいきます。